

## 私の研究と 研究室の学生との 気ままな関係

音楽教育講座・教授  
安田 寛

■私の個人研究  
私の最近の研究についてお話ししますと、昨年は平和中島財団というところから助成金がいただけたので、長年温めてきたポナペ島行きを決行しました。決行という程のことはなく、グアムから主翼にジェットエンジン二基が着いた旅客機が飛んでいて、問題なく行けるミクロネシアの島です。この島の讚美歌と日本の唱歌との深いつながりを調べているのです。

■私の共同研究  
今年度は科学研究費で六人の仲間と、明治以降日本人の歌声がどう変わったかということと、三人の仲間と、「反キリスト教と新伝統としての国歌の創出過程に関する総合的研究」というものを行います。私はこの研究で、宮中の御歌所の和歌がキリスト教の讚美歌に対してどのように抵抗出来たか、その抵抗が唱歌にどのような痕跡を残しているかという変わった興味を持っているの



宮下俊也研究室との「ゼミ対抗歌合戦」

です。今朝、アメリカからのメールで来年六月にカリフォルニアであるパークシャーカンフレンス2005での発表の採用通知が届きました。ここでは京都や大阪でどのような抵抗に遭いながら女性宣教師が音楽教育を広めていったかについて話すことになってます。

■そして私のゼミの学生  
研究室の学生は自由にさせてます。そんな様子をお見せするつもりで、宮下俊也研究室との「ゼミ対抗歌合戦」の写真を掲載します。学生には音楽をすることの楽しさを忘れないように、それを教育で伝えなさい、とだけ言っただけで、後は自由にまかせています。

## 学校と仕事の 世界をつなぐ 教育の探究

生活科学教育講座・助教授  
河崎 智恵

### ■多様な教育内容・方法

家庭科は、調理や裁縫など実習のイメージが強い教科ですが、消費者問題や福祉、ジェンダー等、人間生活に関する幅広い内容を包含しています。私の研究室では、これらの多様な領域の内容や指導法について、国内外の教育実践例を比較検討しながら研究しています。中でも、近年は特にキャリア教育、すなわち仕事や生き方に関する教育の在り方について検討しています。

### ■キャリア教育の在り方

日本では、これまであまり学校で仕事についての学習が行われてきませんでした

したが、一九九九年に文部科学省によりキャリア教育を小学校から導入することが提言されて以降、積極的に検討されるようになりました。すでに家庭科をはじめ、各教科や総合学習等でキャリア教育が実施される構想が示されています。このような状況をふまえ、ゼミでは、総合学習や進路指導、生涯学習をも視野に入れた、キャリア教育の内容や方法について探究しています。

### ■卒論研究を通して

ゼミでは、自主性を最大限尊重した指導を心がけています。したがって、自ら考えて努力する必要があるのですが、ゼミ生のみなさんはその大切さを十分に理解し、「青年期のキャリア決定プロセスの検討」や「小学校におけるキャリア教育の開発」といったテーマを自ら設定し、意欲的に研究に取り組んでいます。私は、卒論研究を通して皆さんが「努力」の重要性を学び、将来の仕事の世界に羽ばたいていかれることを心から願っています。



研究室で学生の皆さんと



# 技術主義と

# 理念の相克を

# 超えて

英語教育講座・教授  
渡邊 一保

## ■研究・教育の概略

英語教育学が専門ですが、この分野は学際的で、しかも実践的であることが期待されています。論理力を養成するための英作文指導、オーラルからリテラシーの一貫指導システム、コミュニケーション重視の英語学力論、英語教育の理念、児童英語教育などに取り組んでいます。実践面では二人の我



渡邊ゼミ所属の院生・学部生

が子をバイリンガルに育て上げたこと、いくつかの授業を英語で進めてきたこと、英語での論文作成指導、英米のテレビ放送視聴などがあります。

## ■技術主義を超えて

このような方向は政府の「英語のできる日本人の育成」やコミュニケーション重視の英語教育とも符合し、一見万々歳とみえます。ただ、英語技能がないところには自己実現や国家の繁栄の可能性の幅も狭まるかもしれないという意味で技術は大事にしながらも、英語教育をなんらかの形で国際理解教育の一端と結びつけたいとも考えています。未だに残る差別意識、英語帝国主義論などを吟味しながら、文化の相対主義と普遍的価値観の関係を考え、英語を学習する意味は何なのかと問い続けているのも国際理解教育との関連を意識していることです。

## ■ある院生の声

「授業では基本的にすべて英語のディスカッションを中心にすすめられます。英語で考えるという基礎工事をもとに、英文のエッセイの書き方、Palmerをもとにした指導法の研究という柱と屋根を築いていくのです。授業の準備など決して楽ではありませんが、がんばった分だけ伸びていくという自分の成長するプロセスを実感できました。」

# 《主体的な学び》

# とは何かを

# 問い続けて

学校教育講座・助教  
片岡 弘勝

## ■学校を取り囲む生涯学習

公民館、図書館、児童館での諸活動、保育所での保護者の学習・交流、商店街、生産組合、NPO（民間非営利組織）や学習グループ等の地域づくりを志向する学習・研究活動……等々。今日、私たちの身の周りには学校を包囲する形で実に様々な学習・教育活動が展開されています。それらの中には、暮らしに潤いをもたらす取り組みのみならず、変化する暮らしや仕事の必要に直接的につながる実学を探究する取り組みも少なくありません。

## ■住民主体の学びとは

こうした学校外の学習・教育活動では、成果を性急に求めることなく、十〜二十年にわたる試行錯誤を重ねて一人ひとりが「自ら学ぶ力」を獲得する経過・筋道が重視され、住民主体の学習・教育実践が大変注目されています。

学生の皆さんと



## ■研究と教育の方向性

私の専攻は、教育学とくに地域生涯学習・社会教育研究という分野で、前記した子ども・住民主体の学習・教育はどのような諸条件が備われば成立するのかを研究しています。授業や卒論ゼミの場では、実践記録を読み討論すること、地域・自治体での実践を訪問・見学し、分析することを重視しています。最近では茶葉生産で有名な京都府和束町を訪問する取り組みを始めました。